

中山間地域における デマンドバス利用実態と 利用促進の課題

豊田市下山地区「しもやまバス」を 対象とした体験乗車会その後の取組み

(公財)豊田都市交通研究所 山崎基浩 (yamazaki@ttri.or.jp) / 楊甲
豊田工業高等専門学校 丹羽彩夏 (R3年3月卒) / 野田宏治 / 山岡俊一
豊田市都市整備部交通政策課 近藤百合子 / 大富有紀子 (現 資産税課)

これまでの経緯とR2年度の取組み

- H30年度に下山地域を対象に体験乗車会実施(参加少数)
- R01年度にサロン単位での参加を企画することで、57名が参加

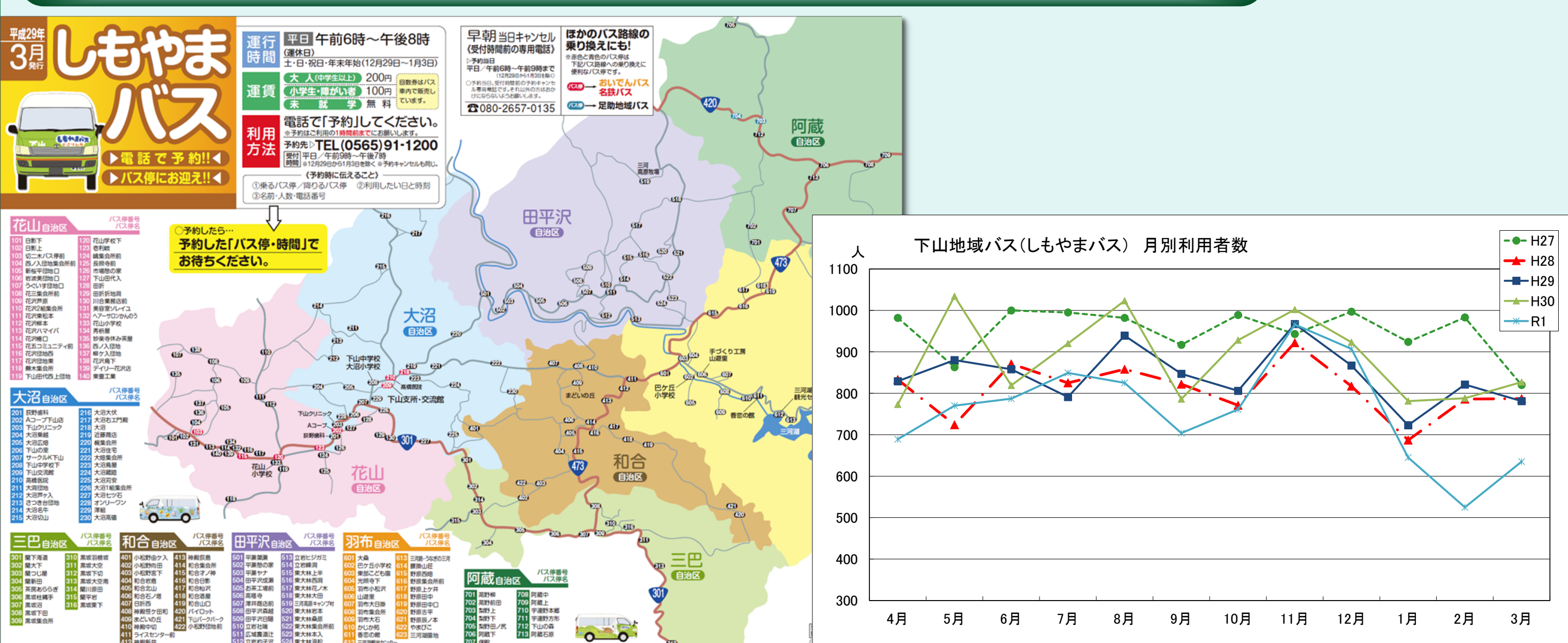
体験乗車会で得られた知見

- 高齢者の地域活動の場「ふれあいサロン」が「生きがい創出」に機能
- 友人らとの「楽しい経験」の提供が行動変容を効果的に促す
- 家族(特に子)からの進言が効果的である可能性が示唆された
- 地域バスは利用し難い地区が存在 ⇒ 乗降場密度の再検討が必要
- 地域バスの利用実態は十分に分析できていない

R2年度の取組み

- 体験乗車会の知見を踏まえ、地域バスの具体的課題を整理する
- 詳細な利用実態を分析し、デマンド運行における課題を洗い出す
- コロナ禍における交通行動や意識の変化を踏まえながら、高齢者の運転免許返納を促す施策のヒントを探る ⇒ **利用者調査を実施**

対象地域と「しもやまバス」



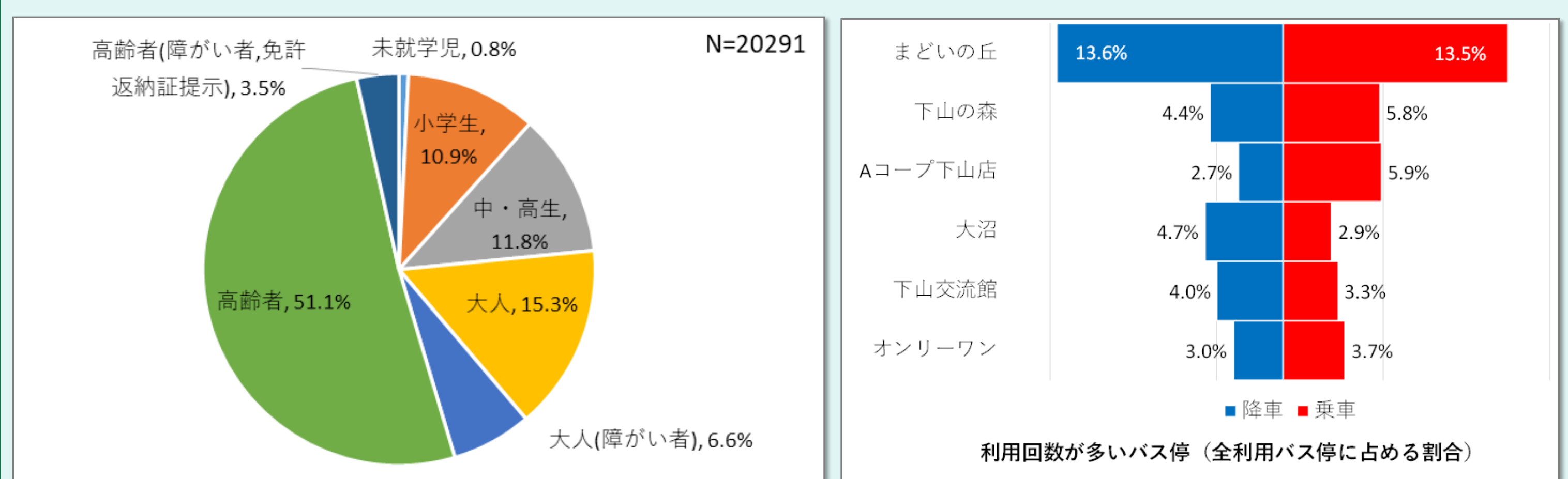
- 平成17年に豊田市に編入合併された下山地域(旧下山村)を対象 (人口:約4,500人/世帯数:約1,650世帯/高齢化率:約30%の中山間地域)
- 「ふれあい地域サロン」の活動が活発 ⇒ サロン単位での乗車会(仲間で楽しく)
- 豊田市中心部への基幹路線「とよおいでんバス 下山・豊田線」(25便/日)
- 地域内を運行するデマンドバス「しもやまバス」(電話予約により運行)

しもやまバスの利用実態分析



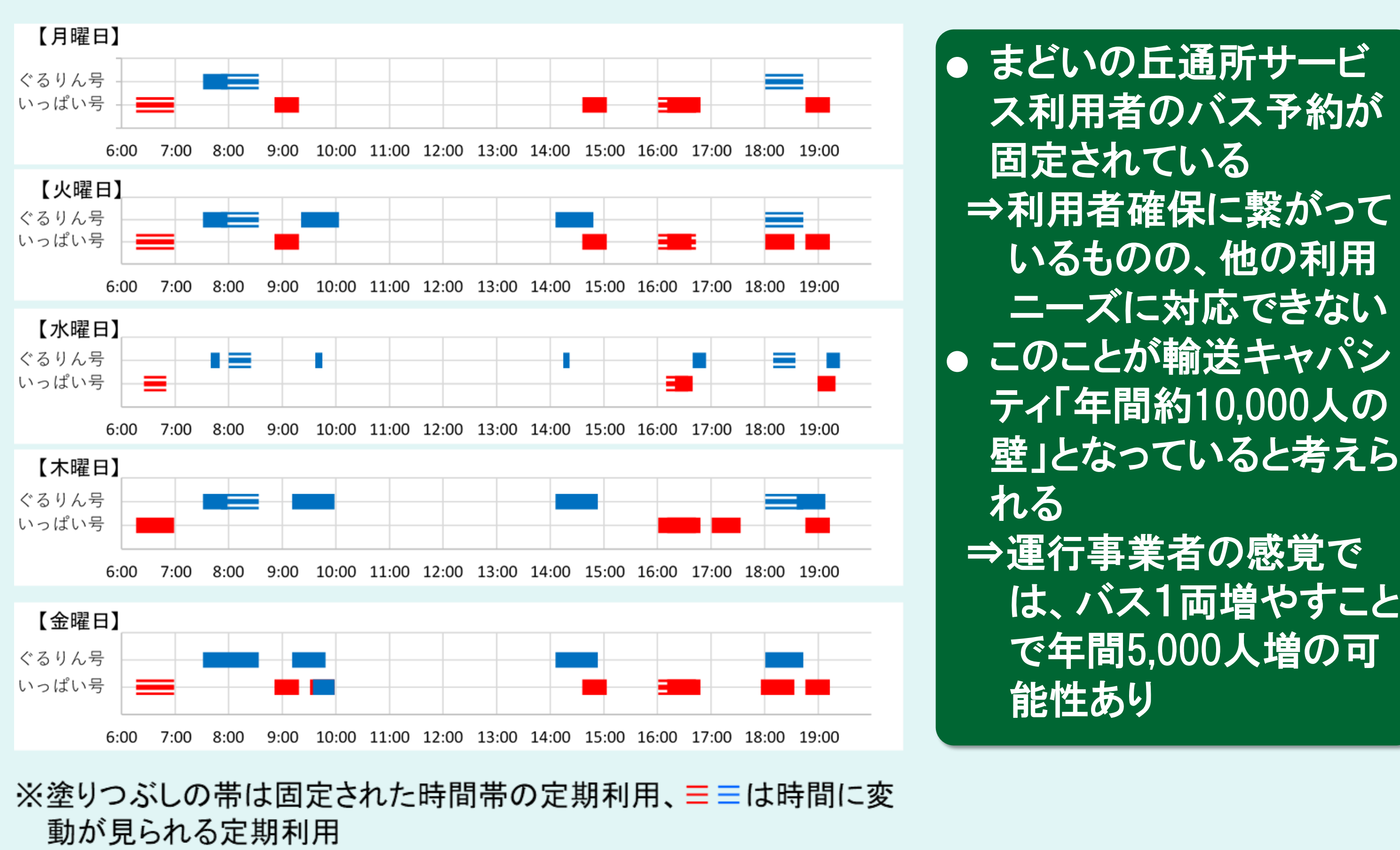
利用者の年齢層区分と利用バス停

- 利用者の半数以上は高齢者だが、小学生や中高生の利用もみられる。
- 利用率の高いバス停では、「まどいの丘(社会福祉協議会の施設)」が突出 ⇒ 要介護認定されていない「通所サービス利用者」が通所のために利用
- 「乗車」「降車」の利用率に差があるバス停が存在 ⇒ 施設間を徒歩で移動し、複数の用事を済ませる外出行動のため



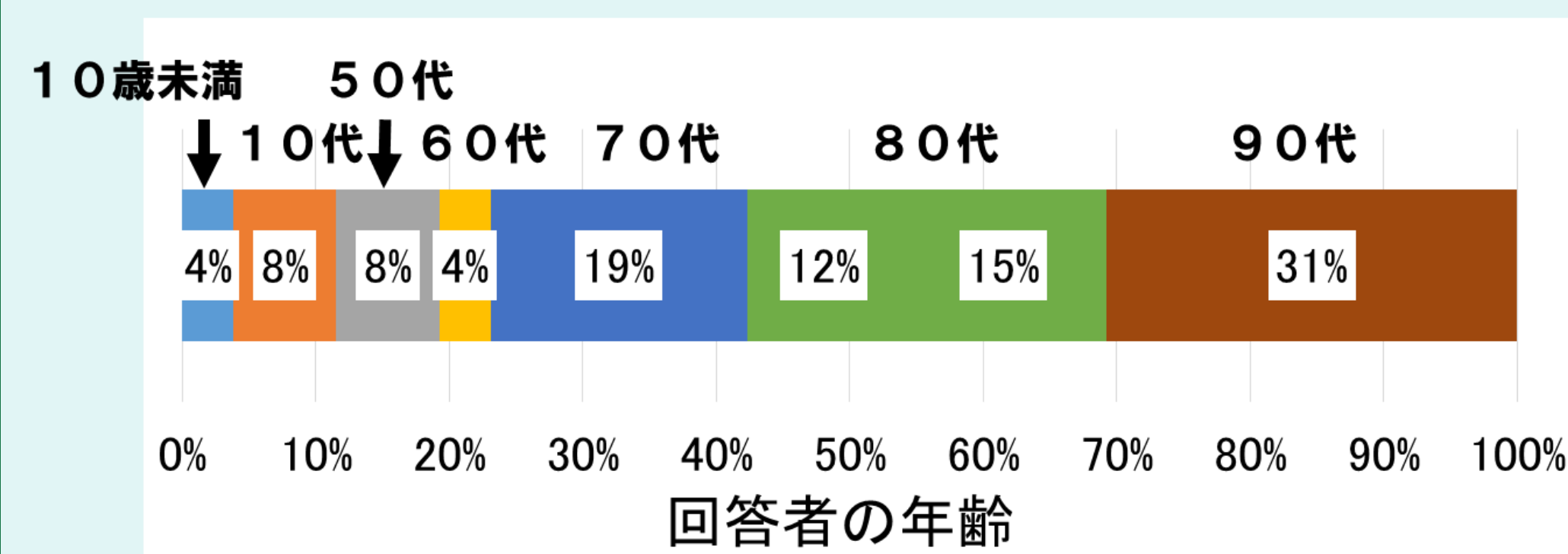
能動的立明

定期的利用者の功罪

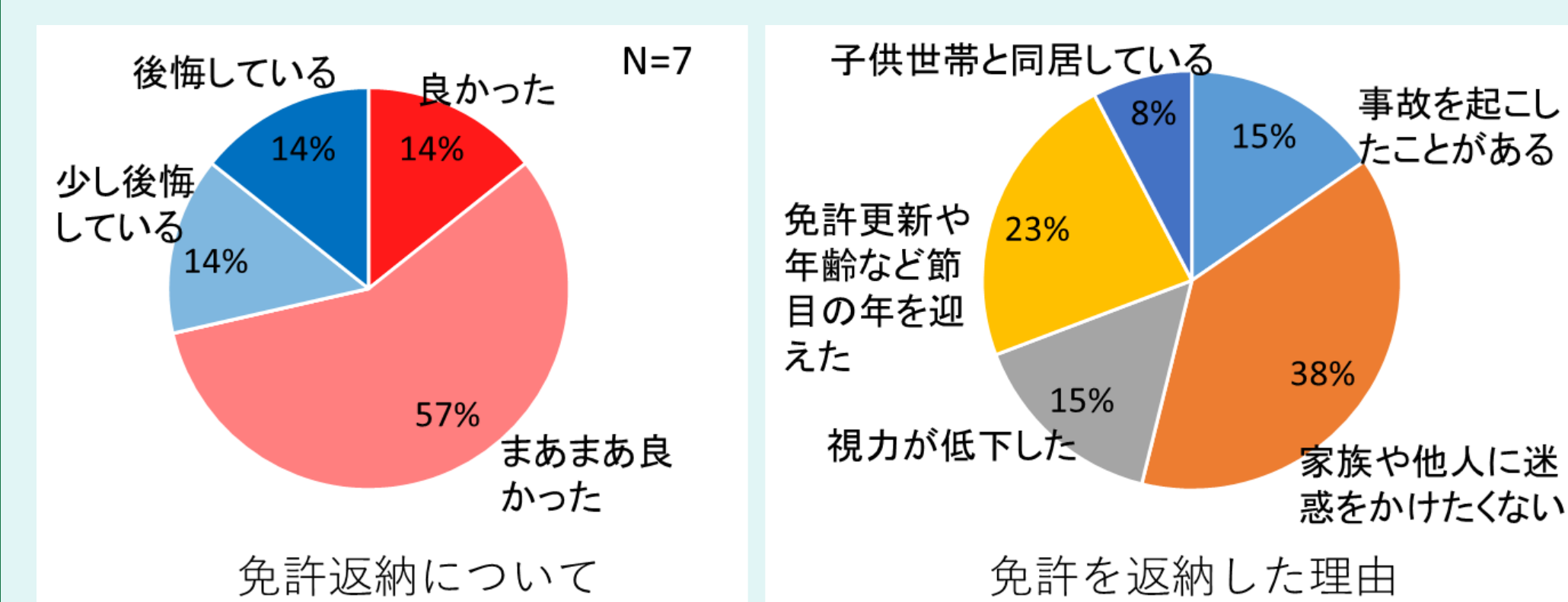


- まどいの丘通所サービス利用者のバス予約が固定されている ⇒ 利用者確保に繋がっているものの、他の利用ニーズに対応できない
- このことが輸送キャンペーン「年間約10,000人の壁」となっていると考えられる ⇒ 運行事業者の感覚では、バス1両増やすことで年間5,000人増の可能性あり

免許返納に関する意識(返納者意見)



- 利用者アンケート調査実施(回収30票)
- 免許返納者は7名
- 家族や他人に迷惑をかけたくないという理由の回答率が高い
- 「後悔している」場合も「良かった」と感じている場合も、その理由は家族に対する配慮が記されている(後悔:家族に送迎を頼まなければならない/良い:家族に事故の心配をされなくなった等)



利用促進の課題と方策提案

【業務日報から明らかになった利用の実態】

- 利用者の半数が高齢者である
- 通勤やまどいの丘への通所など定期的に利用している人がいる
- 小中学校の課外授業、地区内イベントでは集団で利用されている

【バス利用者意識調査から明らかになったこと】

- 利用者は予約に対して不満はあまり見られず、好印象を抱いているが、予約不成立は発生している
- 免許返納者は家族への配慮を意識している

【課題と方策提案】

- 定期利用者がいない時間帯を情報提供し空車時間を有効活用⇒予約不成立のデータを記録し分析することで、より具体的な対策を検討
- 定期利用者にとって一定の「我慢」を許容させるルール作りも必要
- 小学生が校外学習時などに予約の仕組みを学習し、高齢家族の予約を代行するような習慣づけを促すMMの実施